



山田ひとき

平群町議会議員 ◆

発行/山田ひとき後援会
広報部
平成29年8月15日発行
〒636-0916
奈良県生駒郡平群町若井407-2
TEL0745-45-4845 FAX0745-45-4727
メールアドレス hitoki@m4.kcn.ne.jp



山田ひときの略歴
文化団体“やまと四季探訪”主宰

- ◇昭和36年4月16日平群町に生まれる
- ◇平群西小卒業 ◇平群中学校卒業
- ◇県立高田高等学校卒業
- ◇摂南大学 建築学科卒業
- ◇一級建築士
- ◇スキューバダイビング資格取得

- 平群町議会議員
 - 総務建設委員会 委員
 - 駅周辺整備事業特別委員会 委員
 - 財政検討委員会 委員
 - 議会改革特別委員会 委員
 - 生駒郡町村議会議長会 会長
 - 王寺周辺広域市町村圏議長会 会長
 - 佐藤正久参院議員(ヒゲの隊長)
- 奈良県後援会平群支部長



同町では、子育て世代にやさしく住みやすいまちづくりをめざす「日本一の子育て村構想」とともに、地元を生産者が育てた食材を使って「ここでしか味

後援会会報

の会長にも就任させて頂く事となりました。議長に就任させて頂くのは昨年に続き2年連続の3度目となりますが、日本社会が少子化・超高齢化に進む中、特に町村では人口減により、自治体の存続・継続さえ危ぶまれる深刻な状況に追い込まれている自治体もある状況の中、我々議会議員は、同じ様な状況に苦しみ、一丸となって取り組んでいる自治体等の視察・研修等も積極的に行っていく事も必要だと考えています。

また、議会報告会や議会懇談会をとおして、住民の皆さまと語り合い共に考えていく事も大切であると考えています。

住民の声を原点到、住民全てが誇れ、愛せるまち、若い世代にとっても魅力あるまちとなるよう粉骨砕身、ちから一杯取り組んでまいります。皆様方のご理解と、ご指導お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



こんには山田ひときです。本年5月9日の臨時議会に於きまして、議会議長の要職に就任させて頂く事になりました。また、その後、生駒郡町村議会議長会の会長及び王寺周辺広域市町村圏(西和七町)議長会

誇れ愛せる魅力ある町へ全力

視察研修報告

その事もあり、平群町議会では10年以上、町財政も考慮して日帰りの範囲でしか実施出来なかつた研修を、昨年度、全議員の了解を得た上で宿泊が伴えば必要になる予算も計上し、遠方の自治体への研修も実施出来る環境を整備しました。

そこで、今年度は数多くのメ

7月12・13日の両日で島根県邑南町と鳥取県日南町へ自費にて視察研修に行きました。

私はそもそも議員とは、色々な自治体の独自の施策、先進的事例から学ぶ事やその施策、事例を参考として、自分の町に沿った政策、制度を立案・提案していく事も議員の職責の重要な部分であり、その為にも積極的に視察研修を行う事が必要だと思っています。



話題のレストラン

A級グルメの町 島根県邑南町

おおなん

邑南町は、島根県の中央部に位置し平成16年に2町1村が合併し誕生した町です。面積は419.29km²(平群町の約17.5倍)、その86%が山林、主な産業が農林業。人口は約1万1000人、高齢化率41.9%の中、合計特殊出生率が2.65[平成24年度](平群町の平成27年度の合計特殊出生率1.16)と驚異的な数値となっている町です。

ディアにも取り上げられている島根県邑南町への全議員による研修を提案しましたが、残念ながら一部の議員の方々の賛同を得られませんでした。

邑南町では、全国の自治体からの研修の申し込みも多く、午前中には東北地方の議員による研修も入っていたようですが、なんと調整頂いた7月12日午後の日程を「無駄にしたいくない」との思いから、やむなく有志議員による自費・自主研修を実施しました。

地域全体で受け入れる長期的な定住化施策

わえない食や体験」をA級グルメと定義した「A級グルメ立町」を2本柱に掲げて定住促進に取り組んでおられる自治体です。

邑南町の政策のひとつとして、充実した専門的・本格的な『農の学校』と『食の学校』設立があり、その事業では、1年(2年をスパンとし、長期的に町内外からの受講者・研修者を育成し、豊かな農地を利用し、品質の良い町内の食材を使用したレストランの開業等の支援まで地域全体で行っておられる事です。

地域全体で受け入れる事、かわる事を通して、その地域で生きて行く道筋、生きて行く力を身につける事となつて、その事が、定住化にもつながつてきたようです。

福祉施策の優遇や、手厚い子育て支援、生活支援を充実させるだけでなく、そこに住む価値観が自然に身に着く、自ら望む生活になつて行く結果、定住が促進されたようです。

また、そのレストランがA級グルメと称され、話題となつて近隣や関西圏から食事など、5年間で92万人もの観光客が訪れたとの事でした。それには、職員らのひとかたならぬ努力、チャレンジがありました。

担当職員の寺本氏は『地域ブランド造りで大量生産を目指す自治体が多い中、あえてB級グルメでなく、地元牛や地元農産物を使ったA級グルメで勝負に出ました』とお話しされました。

また、『農の学校』、『食の学校』の講師は、超一流と言われるホテルの料理長や、大学農学部教授などが、邑南町のコンセプト、担当者の熱意に共感され定住し指導されていました。北海道の洞爺湖サミットが行われたホテルから来られた現在の『食の学校』講師の方は、『給料は数倍減りました。無理やり連れてこられました』と笑って楽しそうにお話くださいました。



他にもたくさんの方で寺本氏は関わっておられますが、失敗を恐れず、熱意と信念を持って、取り組む事が人の心、気持ちを動かす、色々な困難な事でも成功へと導いてくれる、成し遂げられるのだと改めて感じ、そこには、その事を信じて見守る、応援するトップ、町長の指導力も重要であると改めて考えさせら

まちを創るのは人

されました。その他、邑南町では、子ども達に対して、生まれ育った町をより知ってもらおう事で郷土を愛する心、地元愛、愛町心を養う教育も熱心に行われているようです。進学等で町外、県外へ出ていった若者達に対し「仕事があれば帰りたい」のではなく「事業を起こしてでも帰りたい」と考える若者には、Uターンで帰って来ても仕事に従事できるよう、起業家・創業者に対しても支援しておられます。それが『農の学校』・『食の学校』ともつながっているのです。

このようにすべての事が密接につながり一体となり関係しています。その結果、若い世代の定住化が促進されたのだと言えるようです。寺本氏は最後に『SNS S・スピード感、N・ネーミング、S・ストーリーとコンセプトが出来ていることが大切です』とおっしゃいました。

まちを創るのは結局はひと。ひとが考え、ひとが行動することでまちは変革していけるのだと、改めて考えさせられる有意義な研修となりました。

国保税

国・県の動向も見ながら税率の上げ幅を調整していく必要があった

3月・6月議会では、国保税の値上げが大きな争点となりました。

私は、議長として討論に加わる事は出来ませんが、急激な値上げは賛成出来ないと考えていました。

そもそも今回の値上げの原因は、平成20年の後期高齢者制度スタート時の支援金分の値上げが発端であると思っております。

平成20年当時、私は「社会保険等からの支援金も不明、未確定であり、もう少し様子を見るべき」と主張しましたが、聞き入れられ

る事なく、多数派の議員の後押しを得て強引に、急激な値上げを実施されました。

しかし、案の定結果は、国保会計において大幅に剰金が増えるという失政となっていました。

そして、失敗を認めない中、税率の引き下げを繰り返す事となり、結果的には下げ過ぎて赤字財政に陥ったという失敗を繰り返す事になってしまいました。

私は、3度4度と同じ過ちを繰り返す事になる可能性があるが今回の1.6倍もの急激な値上げについては値上げ幅！3倍程度におさえ、国・県の動向も見ながら、税率の上げ幅を調整していく必要があったと考えています。



行事・集会



総代・自治会長会議 = 5月13日



人権・命の尊さへの町民集会 = 7月11日



平和の火リレー = 7月19日



平群町長寿会連合会総会 = 5月12日



交通安全協会平群町分会総会 = 5月17日



町連合PTA夏季懇談会 = 7月1日



プリズム健康フェスタ = 6月25日



人権教育推進協議会総会 = 5月26日